

# ERDE Zeitung

vol.36

足と靴の相談室エルデ

〒161-0031

東京都新宿区西落合3-20-9

Tel.&Fax. 03-3954-3636

URL: <http://www.erde.jp>

E-mail: [office@erde.jp](mailto:office@erde.jp)

**足を傷めないパンプス登場!!**

## パンプスにも使える Anatomical Foot Bed が完成しました

「靴は歩くための道具」とはいえ、人間、靴を履けば必ず歩き回るというわけではありません。

冠婚葬祭はもちろんのこと、新年会や記念パーティー等々、歩くためではない特別のシーンでまで、何が何でも「歩くための道具」を履くというのも……。

実際、舞踏会でワルツを踊るのに適した爪先立ち用の靴としてハイヒールが生まれたように、靴は単に歩くためだけのものではなく、用途に応じて色々なものが生み出されてきたわけですから、私たちとしても、生活の中で多様な靴を使い分けることは本来お勧めしたいことなのです。

ところが、残念なことに、靴の文化を身に付けていない私たち日本人の多くは、靴の選び方、履き方、歩き方を誰からも教わることなく、知らず知らずのうちに足を傷めてしまい、今や、用途に応じて多様な靴を履きたくても履けない足になってしまいました。

多くの現代日本人の足と靴の悩み——「足に合う靴がなくて歩けない」「ヒールのある靴は痛くて履けない」「外反母趾で履ける靴がない」等々——の多くは、靴文化の間違った受容の結果として引き起こされたものなのです。

私たちが、ことさら「歩くための道具としての靴」を強調する

のも、「歩くための道具としての靴」しか履けない、また、そのような靴で改善しなければますます悪化する、「足の国民病」=外反母趾をはじめとした足や脚のトラブルが、全国的に蔓延してしまったからなのです。

ですから、傷めてしまった足を、日常的に「歩くための道具としての靴」でしっかり歩いてケアすることによって改善が見られれば、必要に応じて、礼装用、おしゃれ用の靴を履いて頂くこともできるのです。

私たちは、そのような用途のために、開張足や外反母趾を悪化させない、また、長時間履いていても痛みが出にくいパンプスの開発も進めてきました。

特に重視したのは、ほとんど100%と言って良いほどに蔓延している開張足への対処のためのアーチサポート、私たちのAnatomical Foot Bedをパンプスにも装着できる形状に成型することでしたが、この程、この新しいフットベッドとともに、その機能性を最大限引き出すことのできるパンプスの製品化に漕ぎ着けることができました。

つま先は趾を圧迫しないオブリーク型でゆったりめ、ヒールは安定性のある幅広の3cmヒールですので踵に荷重をかけやすく、前足部に負担をかけません。

足をスマートに見せる斜めがけの細いベルトで足の滑りを防ぎ、強靱なシャンクの入った中底がしっかりと荷重を受け止め、長く固いヒールカウンターで踵のぐらつきを防いでくれます。

さらに、Anatomical Foot Bedの効果で、長時間履いても疲れにくく、外反母趾、開張足の予防も十分に期待できます。もちろん、フットベッドのカスタマイズや足底板の装着による個人仕様も可能です。

お仕事で長時間立ちっぱなしの方にもお勧めできる機能を備えていますので、ぜひお試し下さい。

デザインは、今後、徐々に増やす予定です。

12月発売予定



ブラック  
ダークブラウン

パンプスに装着された  
Anatomical Foot Bed